

執 筆

千 明 雅 尚 (有) クリエイト

平成8年度研修研究センタープロジェクト研究
「短期課程用の教材開発（生産管理）」企画開発委員

千 明 雅 尚 (有) クリエイト

市 川 和 夫 市川経営ブレイン

本 多 薫 産能短期大学

更 科 利 夫 職業能力開発大学校研修研究センター開発研究部

秩 父 和 恭 職業能力開発大学校研修研究センター開発研究部

本教材「事例研究集」の利用の仕方について

この事例研究集は、職場で日常見られるさまざまな事例を項目別にとりまとめたもので、これらの事例を研究することによってリーダーシップの能力を向上させることを目的にした教材である。

本教材は、事務・営業・製造などあらゆる部門の中間管理職者、管理業務についている係長・リーダー・チーフなどの中堅クラスの人、これから管理職者になろうという人を対象としている。このような人たちがいろいろな課題をおり込んだ事例を通してリーダーシップについて考え、学ぶことができるようにしてある。

この教材の利用方法は、大きく分けて二つある。一つは職場外の研修やセミナーなどの場で利用する方法である。講師のもとに事例を演習・討議し、各自解答を出して発表し、講師から講評を受ける。二つ目は職場内の勉強会や自学自習（個人学習）の方法である。各自、事例に対して解答を出し、それを上司・同僚などから意見、アドバイス、添削を受ける。そのほか、各人に合った利用方法があると思われるので多様な方法で利用されたい。

事例は、11項目別に収録してあるが特に順番はないので、どの事例から研究しても差し支えない。

事例の解答は、正しいものがただ一つということはない。一応、標準的な解答はあるとしても、その人の考え方によってさまざまな解答が出て当然である。解答を出すにあたっては、まず事例をよく読んで検討し、「問題はどこにあるか」（問題の所在）、「問題はなぜ起きたか」（問題の原因）、「問題はどうすればよいか」（問題の解決法）、「問題はどうしたら防止できるか」（問題の防止策）などについて自分が事例の当事者になったつもりでじっくりと考えることが重要である。そして、自分なりに解答をまとめてみることである。

各事例には、それぞれ異なった“ねらい”がある。これらの事例を研究することによって、リーダーシップの能力の幅を広く、深くすることができよう。

なお、本事例集は職業能力開発大学校研修研究センターが平成7年に発行したテキスト「管理者教育」の姉妹編である。「管理者教育」を併せて活用するとより効果が期待できるのでお奨めしたい。

教材情報資料 No. 60

管理者教育

リーダーシップ事例研究(Ⅱ)

【受講生事例研究集】

発行 平成9年3月

発行者 職業能力開発大学校

研修研究センター

〒229-11 神奈川県相模原市橋本台4-1-1

電話 0427-63-9047 (広報普及室)

印刷 (株)ワークワン